

アイヌヘイトに対する3学協会共同会長声明

過去 150 年ほどの間に蓄積されてきた自然人類学、文化人類学、考古学、さらに歴史学や言語学などの研究成果は、アイヌ民族が独自の文化・社会をもった先住民族であることを明らかにしてきました。しかし、近年、これらの研究成果を誤解あるいは曲解して、あたかもアイヌ民族の先住性を否定する学術的根拠があるかのように訴える、ヘイト（不当な差別的言動）とも受け取れる内容のものがみられます。日本列島の人と文化のルーツや実態の解明に貢献してきた学協会として、これらを看過することはできません。

例えば、北海道の歴史区分として「アイヌ文化期」が 13 世紀からはじまることを根拠に、それ以前の文化の担い手とアイヌ民族との間に連続性がなく、アイヌは北海道にいなかったのでは先住民族ではないという主張がなされています。しかし考古学の用語である「アイヌ文化期」とは、あくまで文化段階の区分であり、考古学の研究成果に基づいて「近現代のアイヌ文化につながる文化伝統の形が明確になってきた時期」を示すものです。文化名が異なることは、それ以前の時期との断絶を意味しませんし、集団の入れ替わりを意味するものではありません。

また、アイヌ民族は北方の縄文時代人にルーツを持つというこれまでの研究成果を認めながら、縄文時代人は「和人」（非アイヌのマジョリティーの日本人）の祖先でもあることから、アイヌ民族は先住民族ではないという主張もあります。しかし、弥生時代以降の主として朝鮮半島を経由した大陸からの渡来民の強い遺伝的・文化的影響下で歴史を歩んできた「和人」社会と、その影響が薄くサハリンなどの北方集団との交流を持ちながら独自の文化を育んできたアイヌ社会、という今日の学術的見地に立てば、アイヌ民族の先住性と独自性は明白です。

アイヌの人びとは日本が近代国家を形成する以前から独自の文化を持つ民族として日本列島の北部周辺を中心とする地域に居住してきました。そして、日本が近代国家を形成する過程ではその意に関わらず支配を受け、差別にさらされ、独自の文化の伝承に深刻な打撃を受けてきました。しかしながら、アイヌの人びとは今日においてもアイヌ民族としてのアイデンティティや独自の文化を継承し生活している、先住民族なのです。ヘイトは、そうした歴史を経て今にあるアイヌ民族の暮らしをふたたび脅かし、共生の理念を否定する言動に他なりません。

研究成果が歪めて利用されることなく、一般社会において個々人が日本列島内外の人の多様性を理解し、受け入れ、尊重し合う、健全で強く安心感のある社会の実現に貢献することが、私たちの願いです。そこで3学協会は共同して、研究成果に立脚した事実と実態の正

確な認識の普及に努め、アイヌ民族に対する不当で差別的な言説の是正に取り組んで行くことを、ここに表明いたします。一方、上述の学術的知見の一部が、倫理的に不適切な過去の研究に立脚していることも、私たちは認識しています。私たちはそのような歴史を直視し自戒しながら、3学協会の社会的使命を果たすべく、他者に対する不当な誤解や偏見を正し、差別を是正するために努力していくことを、あわせて表明いたします。

2025 年 12 月 15 日

日本人類学会会長 海部陽介

日本考古学協会会長 石川日出志

日本文化人類学会代表理事（会長） 棚橋訓